御湯殿上日記

慶長十三年
同　十四年

四十八
四十九

和書
一〇五二七號

和書門
類 一〇五二七號
一〇 函
一 架
三九 冊

内閣文庫
和書類
一〇五二七號
三九冊
一六二函
二一架

内閣文庫
番號 和 10527
冊數 39（39）
函號 162 236

内 一二六七〇號

慶長十二年　法ちゐんのうつし

御湯殿の上の日記　巻四十八

正月

一日

四方拝あり　御さん　御さかつき参る御さかつきのあとに御まいる
かたかお参る御はかためまいる　御さかつきまいるめてたく新
しゆんの御いはゐ又こ御所さまへも御礼めてたく
ひんてんの事そし[illegible]　まんしゆ　[illegible]
はいちんまいる　さし[illegible]のはいりてまいる　大ふくとてまいる

日本政府図書
図書局文庫
教部省文庫印
内閣文庫
内　一二六七〇號
本局蔵書

うけとり申大典侍殿長橋殿いよ殿大すけ殿ひさ人之女院衆分
は新御所のいくたひにも胡の盃にて銚子ははしにて候へは内侍より
いよ殿は宮さまより夕方みなさまへこと候にも御さかな
三献にては小盃にてはお銚子の御方女御の方之
廿六日出御にあらせしかとも内弁大臣之九条殿けん参しゆへ
いしくさんしゆへのりて内侍は平内侍殿之者御え
お弁殿の御ふ内之

二日　なし

胡の盃にて御ちかし花ひら御あかせられてうけとり勾当内侍殿は
内侍殿公内侍殿さぬき殿之銚子は勾当内侍中の内侍より
さぬき殿はまへにあり　女院衆へは伊与殿は大すけ手にて

よんは四位三の宮の方へ十てうおいなか一たんこさまかへり
女御の方分は新御所のいくたひにも御さかなあらされともみなさま
まいる女中やの御料まいる小ふて御ふてまいる女院衆
三しゆ入の御料三しゆのこしもられ宮の方八条殿伊与殿は御飯
まいりて夕方のみさ三こんにては小盃にてみなさまへこと申
松とかへられちよ御あそはさる

三日　なし

胡の盃にてひしはなひらとり参せられて大すけくられてうけとり勾当内侍殿
中の内侍殿さん内侍殿にうけとり候胡の盃にて典侍さん内侍より
いつもの殿はまいらる

四日　なし

五日 なし
朔の御まいりあり いや一せんのくらゐ平内侍殿めさるゝ事也めでたし
朔は御まいりあり こゝしの御さかつき せんせんあそばし
六日 はれ
朝の御まいりあり 八条殿 これにたる御めでたさ 二献あり 御さかつきまいる
とうこうしの御まいり一こんあり
七日
右の法中納言殿大納言の御 左大将 勅使なり
御かた御まいり御さかつきまいる 朔の御まいりあり 御かたの御こと
朝のまいり 新大輔殿 中内侍殿 いで殿之 夕 御さかつき 御まいり
御まいりの御こと 二こん 小まいりあり 白ゆるの せうしの事 まいる 年ハ左大
ほか法さ殿之 けうえん まいりし くさん まいりの事まいる
まいり たんお年の まいらせ 内侍ハ 中の内侍殿之
八日 なし
朔の御まいりあり ひな ほいなん よしまいる まいり たんお年の御まいり
出る大しまいられまいる 二こんあり 御さかつき
九日 なし
朔の御まいりあり 新院殿より 三こん まいる 御まいり 近衛殿 一条殿の
まいりの法殿 大覚寺殿 西園寺殿 妙法院殿ハ まいりの御事
平内侍殿 まいらせ 院殿 入江殿 まいり 御さかつき
十日
朔の御まいりあり 諸礼まいる 近衛殿 左大将殿 近衛中納言殿

院の御所ニ三人にて大かく寺度正二位度弁内侍局

御所の御かた二三人にて参り度妙法院殿より志てしやうのさの

志てし二三人より入江殿や、御所さまなる二条殿よりいそ参らせ

御所さん二三人より紀酒三条中納言にてなとの御所飛鳥井

おやこたんて御酒まいらせてんきいくわ鳥丸おやこゆるし

ろうえいまいらせらるゝ

十一日はれ

朝かれゐまいらせらるゝ一こんまいるまいる　上らい

ちくのおりしまいり御ちや一こんにてしく　御所さま

十二日

朝かれゐより御ゆたちとこゑまいらせ積みかさしよりいこ局へ

御所さんやの御ちそうてんきいくわしまいる烏丸宰相ちこ元服とて

御所しらうえより御所へしまいらせらるゝよろこひよりまいる紀

酒三条中納言にてなとの御所弁

十三日

朝かれゐまいる

十四日

朝かれゐ御まいり御ちまいらせとりまいらせらるゝしゆ

女御より御ことゝ御まいる

十五日

御ちかのあふこせうより御所へ山科かささうなるまいる

朝かれゐにて御補平内侍殿さまにて御所まいる

こわくはらるゝ御たいいつものことく三こんの小御たいもまいる御とて
清浄華院へまいらし御たいはさゝちやう御ちやうもしもしく
女院の御方よりまいる心経いつものことくいちのこまえ近衛殿の
政所かたより御経三色三かまいる
十六日
いつもの二おそゝかりて女中へうしゆきんの御とう女中へまいらるゝ御経の御ねんふつらるゝ
十七日ことなし
御うたの経の御経よみまいる
十八日ことなし
おなし
十九日ことなし

廿日
女御の御方より御たいはらる御たいへ参よりまいるゝ摂政殿よりまいるあるゝん　摂政殿まいる
なかはしのいちのいい御たしくのちやんこには壹つこんまいる九のみやの御方の御れ二
なるゝはたまいる女院の御方よりまいる女院の御方より御たいまいる
廿一日
摂政殿よりまいる女御の御方より御たいをまいるいるゝまいる　まいる
廿二日
女院の御方よりまいるゝれさちのこまいる
廿三日
春日社の御礼にいちのちか経かいかちかれまいる御代
五十枚まいるたかの方へ二十枚まいるいちのたからかれ二十枚枚まいる

まて上下はんしよふんこはうの花二百ちん御まいる女院の御所へ
いまゝいりまゐらせらるゝ女中ゟも御たる内侍所へ
相国寺よりまいらるゝ准后の御かた御あかり御まいる
平内侍役にて御まいる女院の御所より二日に御まいる

廿四日　雨ふる

せんかうしちん御院にていつものことく法事あり

廿五日　雨ふる

おなし寺より新橋より三寸せんせん色まいる女院の御所より御まいる

廿六日　雨ふる

広橋法しやう参上

廿七日　はれ

大坂より中の院にて御たいめんあり

廿八日　はれ

胡麻まいる

廿九日　はれ

宗旦の御事まいる

三十日　はれ

たうのまいる

二月

一日　雨ふる

一 朔ハ局ゟ参らるゝ新大典侍殿中内侍殿ハいつもハ御まいりなく
ハ盃三こん、局ハ御供衆女房女嬬女中ねところにて
も女御ハ宮ハねひのいちひ也ハ盃二こん、局女御ハ宮へ
ハ様ゟ御こんしやくいつも参上

二日 おなし
うちまきねところにて十人あまり御出ハ御ひとひ也

三日 大いちハ人ふせんにて参上

四日 おなし
ハわんをハ人数三こ院殿廣橋西洞院烏丸宰相中将
御ミのまいりて御ゟまいり志ゆてうありて参上

志め年頭のせつハ盃局ゟまいりてゆるしハ局
ハ配膳まゐりて廣橋 ちようちハ局へ御さかつき
ゟてハ盃一こん局女御ハ宮へ別殿にてうちしき尼御所
こん局ハ御供女房方

五日 おなし
正三位院殿再内侍殿なる局ゟいつものことくあせんゆう
ある女御ハ宮各ふるのまんらハ

六日
しまきねところにて御出ハ御ひとひ也 迎衛殿まんせう
十てう自とう三献りせしも菊自負参上

七日 おなし

いせの上人まいりのゝれいにめして一こん一折まいる

八日 ちくし

大りちう人くしまいる 女院の御かたよりあさまつるゝ広橋か こうめまいる

九日 はれし

あしまいりのちんよりまいる

十日 ちくし

大りちう人こわく御まいる

十一日 はれし

まの御かたよりちう人ところこわく御一かまいる せんあふ杉原の[illegible]

十しんまいりてあつものしゆし

十二日 ちくし

東殿のふくろか白ふ廿枚とんを十把まいる

十三日 ちくし

女院の御かた東殿よりおとをまいらせて御たる二かまいる 御ちの方

よろいそのち二かせてまいらる 女御方もそのち一かまいらる

たいまひか東の御車にてかいらせてたいし隆光まいらし

大くちことなるいらんしる

十四日 ちくし

ことなる御事なし

十五日 はれし

女中いつものことくい心経いよみをまいる ちやうけられて

おふくつとも女院の御かたも三こん御かたもらるゝ式の御かたまいらる

夕かたハうちよりゐんあゐ院にてはしめて御つゝきまいる
の御ともにハ宮の御方女御方ハ御はいせん御まいる
なりまいる人ハ十てうとんよりにもすまいる 女院ゑもん佐まいる
女御の御方より御所へ まいる かしこまりハ 日時にあひしと
下りまいる

十六日 はれ
女御の御方より竹の子まいる 諸家より御筆にて 御へんしゆのれんとてやうまいる
まちかねの代まいる

十七日 はれ
秀頼卿より法のあまりまいる 御そく 広橋長橋御文
出る 女院の御かたさまへまいる

十八日 はれ
吉なる御筆にて 大まるやうちたまはるへしまいる

十九日 はれ
女院の御方よりうちのみこんまいる

廿日 はれ
女院の御かたいつものことくいせのみこのいの御やうたいとてしこう人の代
新三位つほねやまいる八条殿よりも御所まいる

廿一日 はれ
御せん門の御法事の御仏事ありてちやうし御ふるしまいる

廿二日 はれ 雨ふる
女御の御方より御こし とり御せんにて十六日の御かた 板倉いかゝまいる
中女院の御かたとこ御つゝきにまいる女三宮の御方よりふんしんまいる

廿三日てんき
別なる事なし
廿四日
青蓮院ひつらひを御かへしことしかせんしとてなし
勝吉出さるゝ行かゐる所三院宗并内侍所よりせんかう
廿五日雨ふる
いつものことき御年忌法会つきよ内侍所へは検使平脇
いさゝかなかうゑいしうし
廿六日てんき
別なる事なし参上［illegible］つく参上
廿七日はれ

青蓮院の得度にて御房様に御ねかひにて御輿七人にて行列
女院御所一こんしきにて御しかるよしにて行列より御所
の御三ごんにて三条殿もちく八条殿西院殿大覚寺殿
はしめの御所もちも男たちも十人斗御とものひとかく参内と
かくし
廿八日雨ふる
朝もよほし月の将軍より返事しとて大納言しては伏見
白川殿所々より十丁まで参内して女御より
長橋殿にて白川殿廿枚ほと大臣局より御事しあり
右御年殿にてんきいそく
廿九日
吉田よりまいる御ところ参内

三月

一日 てる
朝かれいにて御さかつきまいる 検校はいしんのうちより御さかなまいらせらるゝ 三こんにて御まいり 女中男たちへくたさるゝ

二日 てる
五宮の方の誕生日にてちんそうしまいらせけり

三日 雨ふる
朝かれいにて御さかつきまいる 三条中納言 御内侍所へも まいらせらるゝ 三こんのおはし 長方 まいらせらるゝ

四日 てる
御みち大名衆人々に御ふるまいまいらする
御むかへにいつものことくまいらする 十てう二はりをまいらする

五日 はれ
女御の方のまいらせらるゝ

六日 てる
長はしの車よせ

七日 はれ

八日 てる
東福寺より あまたまいる 十てうまいる

九日 ふる

呉なと流さるゝなし
十日 雨ふる
廣橋まいる まいらせらるゝ
十一日 ちゝし 久我御参なる
いしさんよりしら地しの絹まいらるゝ
十二日 ちゝし
廣橋よりまいらるゝ 菓子まいらるゝ
十三日 ちゝし
中内侍殿流しまいらるゝ
十四日 はれ
女御殿より杉原まいらるゝ

十五日 ちゝし
東福寺より長老紹御見舞 十かいさし二まいる
いまいりあり
十六日 はれ
一条院殿条内殿十かいさしまいる 清涼殿にて御対面
十七日 ちゝし
呉なと御書なし
十八日 はれ
大なる地震あり
十九日 ちゝし
廿一日 はれ

廿一日 ふる
廿二日 ふる 大しやうこくへ御なりし
廿三日 ちうし
女御よりいとあけらるゝ なる御さう二こんまゐるの御かた十文字の
たるより稽古三色三かまゐる 御しくとなりて御まへし
廿四日 ふる
弁内侍まゐる いつものとくいせんあつる
廿五日 ふる
下法けなさけらる 萬里小路ゝさけらる
廿六日 ちうし
萬里小路ゝさけらる 廣橋ゝも同しく

廿七日 ちうし
女院の御かた二の御所へ 女法の方よりいろ〳〵の物つかはさるゝ 三宮御方
よりも稽古三色まゐる いつものとくのいのちの御つかいとてまゐる
さぬきおよそあなかしけさんしよのまゐる
廿八日 ちうし
朔日より女院の御かたにはいつものとく 八条殿より大阪のいちとて
よひ一折まゐる 大かたの人々まゐらるゝ
廿九日 ちうし
ちうくなる殿まゐる よし回のこなしらる

四月

一日 よし
胡の實ら朝より遊いらねめみな参さりてなし 夕方に通
いつものとくに三こんら

二日
さつきおり出たけのこを上け

三日 よし
八条殿西之院殿中院 河原 殿上わらはへ五三の花
かしてかさんにまんくる 胡枝花折し五節まいる
夕くさ花をてまいる くまいる

四日 よし
板倉さけのこを上けさるまんま大くる殿参る男たちめまて

五日 よし
弁内侍殿まいらるいせん法楽を花ら

六日 ゆし
女房いまのさけのこら

七日 よし
殿上わらはへ桔梗をまいる 女院参らるまんら

八日
大覚寺殿 弁内侍殿より 源氏絵をまいる 秀親こんとうかうして
うくしたまといふてくりさいく入座ありんふくるさこなさとてこれといふものを
はちうせるるし 秀親太さの十てう白手百枚を上けふろろ
丁子百斤ちんる殿を上けいものをて紙白ちてても一て斤

こゝろんかね参る　女院の御方へいまゝいらせ給　十かう十かうちん大まる
八条殿よりも御方へ大まるてうまいらせらるゝ　女院の御方
よりしまいる　よるの御まいりけ十かう　女房はるかにまいらし二荷
まゐらせ二つ　かう　かりしまいる　八条殿より男たち十人まいる
めしていたひまゐる　中院よりけふの一献参る
九日　さうし
是かたへまいる御ゆるし
十日　はれ
女院の御方よりはくかりまいりてひきまる　八条殿には御つかひにて
まいる男たちなかいく衣のこと御めしのあひしくことしいふへく
なとありて　見物しく　まゐることもかうてもあり候
参る　西洞院より御かへる参る
十一日　なし
松さき御様参る　女院の御方へ参らる
十二日　雨ふる
十三日
夜に入てしも大とのへ参らせられて　二献十てう一献参る
是かたへ参るの御ゆるし
十四日
まつりし　御しゆけ参る
十五日
いつものとく　女中いさんまいる

十六日
昊天なくての事なし
十七日
萬宮(?)ゆけのこ進上、御所ん院よりの礼申入らる、十てう
本まる進上、宮より同進上、上に院より一荷白銀
十まい進上申、まんともち参内也
十八日雨
検使に和尚(?)下(?)にて進上
十九日
廿日
昊天御事なし

廿一日雨ふる
五三の宮御かせにて親王(?)人にては進上へ、御宮のは銀
かけし
廿二日くもり
八条殿へ文にて万よろこひは申され、女御よりこし
朝かたうしさへ御参へこよりしにて御よろこひ申さるゝ
廿三日
昊天なる事なし
廿四日
西の院殿かよりのそのせんおもと御いり
廿五日雨ふる
昊天御事なし

廿六日
平内侍殿ゟ清水へ代参りの御撫物ふくまいらる

廿七日
吉方なりの御祝

廿八日　めてたし
大かく寺殿舟田殿八条殿まいらる　源氏の講釈あり　女院の御所よりまいる

廿九日　めてたし
女三宮の御方へなり　のまりしてあそはさるゝ

卅日　めてたし
宮の御かた殿よりまいる　権大納言殿まいらる　よしもとの御あとへ
一やらくめてたくまいる

五月

一日　晴
朔日の御祝いつものことし　権帥殿中納言殿いつもの御まいり
めてたく三こんまいる　源侍従殿の方　女御方　女中男なとへふるまわる
女御の方よりまいる

二日
女院の御所よりいつものまいりもの御まいりあり

三日
いつもの御祝　女院の御所より御まいり　宝蓮院殿よりまいる

四日　めてたし

こん御所よりまいりて めてたの御事 松平安芸守 女御の方へまいる
女院の御方へ 別にまいらせられ候 御盃三こんにて御対面 女院の御方
五日 おなし
朝かれゐの御まいりに 権帥なと 内侍の所 さねちか御所の御方
御盃三こんにて 御対面 女院の御方 女中 御たいめんにてまいる
女院の御所への御ことなりしまいる 叶の御方へもまいるにつき しくまいる
六日 おなし
てん上の御せんにて 御所より しりまへまいらせ候
七日 雨ふる
みなまいらせ候
八日 おなし
迎御所より もてまいる
九日 おなし
よるの御事まいらし
十日 はれ
あさの御まいり 御たいめん 勅使の御所 松平
十てう 白の御ゆみまいる
十一日 おなし
まい御所の御事なし
十二日
夜の方への御まいり 叶の御方へ せんにてまいる
十三日 おなし

ゝ十度御んくくま　女院の御かたへまいらせらるゝ大すけ殿人々まいらるゝ
ゝ代礼よりゝ拝領ゝまいる
十四日　はれ
天気よろしからし
十五日　雨ふる
女中いつもの通く　仙洞のよりの大すけ殿人々のまいる
十六日　雨ふる
千度御んくくま　女院の御かたまいりてましませ　新大納言ごもじ
こそましの御代礼よりまいる　拾櫃まいる　近衛殿の御んまいる
内侍の御かたへ御参らる　女院の御かたへ還御ちかきやうにまいらせらる
十七日　雨ふる

十八日　はれ
女御の御かたへ御まいらるゝ　たちまちのお祝　松原丹くまいる
十九日　雨ふる
天気なるゝ物なし
廿日　はれ
阿野大納言殿の御ん一桶まいる　緒白一桶まいる　大すけ殿人々まいる
ゝふくろまいる
廿一日　はれ
ゝ女御の御方いつものまいる　女院の御かたへまいらる
廿二日　はれ
女院の御かたへまいらる

廿二日 はるゝ
ふるまひ院御所へまいりあり
廿四日 はるゝ
こよひ御ところの御へんくわいあるにより一ふさまいる せんく
わうてう院大納言へも わかふかさうして 女院の三条大納言
ちやうそてつてん御さかしとて くしもさん一つてまいらせしこ
うんこ 松原十てう 白か一つてまいらする 宮内卿升田段
なり 山のそもしゝせんわうくを
廿五日 はるゝ
いせつけそんせき たちへふくみわらし
廿六日 はるゝ
又なる事なし
廿七日 はるゝ
きいこみまいらし 山のゐ中納言 女院の方より 山もゝまいる 女院
の御方よりまいる
廿八日 はるゝ
つもんくわいの人数 式部卿宮 こんゑ殿 せいくわん 式部
せう御前人こ 式部卿 くるわのいせん御かたのまいりや
ほかの御かたまいる 豆腐をまいらせらるゝ 女院の御かたへもふかき
らるゝ 三条大納言まいらるゝ 女院の御かたのいせの御かたのしらうりまいる
廿九日
ちうしく御寄物とて 吉田よりもちゐまいる

慶長十三戊申歳下

御湯殿上日記

巻四十八下

六月

一日　なし
胡は[illegible]新大輔より久[illegible]を[illegible]　久方より[illegible]

二日　まいる
三こんにて女院御所よりふりにて[illegible]山を[illegible]つかはさるゝ
女院御所へまいらせらるゝ

三日　まいる
こよみまいる事なし

四日　雨ふる
宮の御方の誕生日にてゝうしのちんおもいけるに御まいる

五日　なし

つゝきんにて男虎十人衆の御出入大かくせ座になるの御覧

六日　ふる

西洞院よりまいる

呉竹の御車れし

七日　ふる

久我より梅いまいる女院御所より御いる

八日　くもり

藪中納言一二こんまいる御方の御さんとつまいる

九日　はれ

一つちきんにて男虎十人衆のめされて八条殿大かくせ座殿正こ院殿なる

廣はしよりまいる

十日　くもり

女御の方より山ゑの一つあるき大かせ人にまいるへの代わりやる

十一日　はれ

廣橋より御しやくまいる松の御さんこと上の御はし

十二日　くもり

女御の方より御色々まいるしやくしゃく大の女中の御方となる女院の御方より色々まいる大御ちの人かまいるし勅許

なかのまの一こん上御

十三日　くもり

女中いつはたちへいる

十四日　はれ

ほうれん院の御まへ一こんにて久我の御いとまいる女院の御所へも申さるゝ

十五日　はるゝ

いつものことく女中へ御はんのよしにて

十六日

女三宮の御方御れんをまいりて法橋三位三人にてけいきの

その御ほてく一ゑ〻(?)に御ひらうして新大納言殿御たいめんをさる

法橋三位三人にてきんとうにも御まんなしこれを御屋にてさしまいらせらるゝ

女院の御所女御の御方へ申てさしまいらせらるゝ

十七日　はるゝ

帝正月二日あかり大なりまゐりて(?)御礼に二けんまいらせらるゝ

御方にて二条殿の御かわりいつものことくなるゝ

十九日　はるゝ

うまの男かたの御まいらせらるゝ

廿日　はるゝ

妙法院殿の御かはり三こんにてちやんし聖護院とも一こんにて女院の御所も

まいる八条殿大かくし殿のせつともいく〻まいらせらるゝ

廿一日　はるゝ

ちん長老の御かわりにて妙心寺よりまいらるゝ　女御の方の御まいらるゝ

廿二日　はるゝ

青蓮院へいらせ伏見殿大納言いふくら姫君へまいる

帝正月三こんまいらるゝ　帝正かり三こんまいらる　女院の御所へ

まいる女御の方の御かわり十四宮の御方へ宮の御方へまいらせらるゝ

れこ姫宮よりこんまいる　十の宮よりは様りこまいる

廿三日　てんき

女院御所よりつふさの日々今日より宝壇院殿へかけ

袋まいる　御太刀折紙そへて三宝院殿よりまいる

廿四日　雨ふる

広橋より弁内侍なるいつものことにいちんかへまいる　女院

にも御ことつてしまいらせらる

廿五日　ふる

天なるのほし

廿六日　ふる

ねし　志女より勅作くに殿こいうちわ十本まいる

廿七日　てんき

女院御所より御ほしまいらせらる

廿八日　てんき

女院御所に新傳に七月より十月の朝さうしまいらせけふ

いかくこめしちんそうて百三るほか御そへいつし　禄こいる

こゝ女院御所へも女房あんへいつちおかなるまいるとおもし

太刀折紙さうおへいらうもまいらる

廿九日　てんき

生鯛まいる

卅日　てんき

ゆへ白鳥数から吉田よりちやひくるとゝへつきさしはふ見一こんまいる

清涼殿にて　新大すけ殿のわたましあらるゝ

七月

一日　おなし
朝の御せんに御いはゐこん御まな平内侍殿さかなに長はしの御まいる二こん参る

二日　同
女院の御所より御たる一荷まいる

三日　同
大すけ殿よりの御樽二かまいる

四日　おなし
大すけ殿人々のいはいの御めてた事の御まないろ〳〵御まな御所へ申さるゝ

いつものことく第信し

五日
大すけ殿よりの御樽二荷まいる女三のみやよりの御樽二荷まいる

六日　おなし
女院の御所へめしたる事ありしより御樽二荷まいる御さかなの御まな
三こんまいる女院御所の女中へこん御さかな三こんまいる方々御まな
まいる御かゝみもちゐの御いはいの御樽まゐる御さかなの御まな参る一こんまいる
参る日ゝ御所より御えんへくはへまいる

七日
朝の御せん御祝いこんにて〳〵おなし　いつものことく
三こんまいる小御所にて御さかなの樽みきまいる御ゆへまいらせまいる

いま出川小路殿の新大すけしみのゝ五二　に大すけ人々に夜の
とてまいる
八日　はるゝ
妙法院殿より御樽三色三かまいるてしゝ新大すけ二色二かまいる
九日　はるゝ
八条殿より御樽みな色みかまいる女院の御所よりもまいる御所より
まんさうれにいつもまいる
十日　はるゝ
大すけ殿より御樽まいる。
十一日　はれ
弁内侍殿より樽まいる。たゝ公まいるいつものこと七こんまいる御ふく

まいる右大将男たち参られ御さかづき三こんまいる三こん
新大すけ殿にも三こんかた御さか六こん勾当内侍七こん御ぬかまいらしゝらる
まいるとき御ぶくしゝ
十二日　はるゝ
八条殿大すけ殿弁内侍殿六人まいる御さかなまいる二こん二こんまいる
八条殿の御さかづきいとゝまいる
十三日　はるゝ
大すけ殿の人々まいる御樽まいるいとゝまいる又御さかなの御樽
いまいる
十四日　はるゝ
思ひいとゝくいとゝまいりてさかき殿御ていらりいつもまいる
よく御の御ふくいとゝまいりて女中男たちまいりて

ふかきかたへはいらぬ事ニ女御とのもちかく御参りまいらるゝ女院の御かたより
此御所より御なくさみにまいる

十五日

夕かたよりさるかくとてはしまりて御さかつき三こんまいる御そは御まへの
いつれもみなちかく御まいりにて此三こんめのさかつきは御すゑひろ
かたけんひろめ候て女院の御かたよりも御所御まへよりも御はなの事
御所よりもおほせいたされて御さかつきいたし御まいる

十六日　はれ

いとゝうれしくおもふ

十七日　はれ

ことなる事なし

十八日　はれ

女御の方より御なくさみにまいらるゝおりから御てんにて御はなしもしく見物
申さるゝ　女院の御かたよりも御とほしまいる

十九日　雨ふる

ことなる事なし

廿日　はれ

諸大夫あり

廿一日　はれ

ことなる事なし

廿二日　はれ

女御の方よりまいる

廿三日 はれ
呉服所事なし
廿四日 はれ
井内匠かたる人済ら所きんかくる
廿五日 はれ
女院の御所のきんつかはさる
廿六日 はれ
大すけの人のうちゟ御文つかはさるゝ
廿七日 はれ
ことなる事なし
廿八日 雨ふる
朝ゟ雨ふる
廿九日 雨ふる
方々ゟ光殿ゟ吉田のきみいらる 女院の御所ゟまいらる

八月

一日
朝ゟ雨ふる方々ゟいたのおもゟ将軍様へまいらせらるゝ
いとくはえい遣しなし 殿のおゐい新大納言中内侍ゟ御文
いまゐりのま 曇三こんの御肴 律家ゟ方女御ゟ方 女中枝とうもち
いとよりのま 女御ゟ方ゟまいらる 板倉伊賀守まいりて祝
女院の御所ゟまいらるゝ御しらくんふさくふき 標ふまいる

いつも一こんまいる中内侍殿目見ゑまいらせらるゝ

二日 同し

ちよくしつかひしまいる

三日 同し

女御よりおたのちんまいらせらるゝ

四日 同し

女くいまいる 女院よりなる八条殿大納言殿中納言殿ハ御たいめん

この御所にも御かたなるハ葉のこひきいてまいらせらるゝ

さんきよくしまいらせらるゝ三条殿ふしんまいらせらるゝ広橋中納言まいる

きくかくの御所にもまいる

五日 同し

広はし御まいる

六日

ひるまんさいこほうち十人のほと御のふし 弟子ひとりまいる 女院

より御そうこうのつかいつかいるゝ 御かへりまいる 将監四郎

二郎の親子二人まいる

七日

女御の御方へ御ちうこんにまいられまいらせし 二三こんまいる 本院女御の方へ

白川雅富さんせいにまいる

八日 同し

女院より御たる御ちうのちんまいらせらるゝ

九日 同し

十日　権僧正の紀念に追上

なし　えとゝこちはや人伊勢大かくる広前にあまた見

そ下つけにあかれこゝろなり

十一日なし

女御のかたのちんは大かくる庭のかたの紀なり

十二日

萬寿宮のかたの紀追上なり

十三日なし

大かた先人の覚寺のかう川まいりて一条に追上

十四日なし

吳竹の御事作し

十五日なし

名月の光なれは庭森あしたなり女御のかたの雲のきんなる

いつものこゝく清涼殿まて月の御覧せらるゝ　女中心経ありまる

十六日

女院の御かたの紀あかつきなり

十七日

ふと上御所まよりあまた御あそひの御紀なり　十のいりあし

十八日なし

御堂の法会なり大かた先人のいきんなる醍醐の御事なけ

みしかゝいる

十九日 くもり
武家てんそう 将くんより 板倉いかのかみ 御れいまいらる
廿日 雨ふる
伝奏両役の挨拶 太閤殿へ御まいり 大かく寺殿へも まいらる
廿一日
高倉宰相 将軍より 御たち 御さかつき
廿二日 くもり
妙法院 御まいりの御れい
廿三日 はれ
こちよりたち 御使御方まで 御まいり
廿四日 くもり

伝奏両役の挨拶 太閤殿へ御まいり
廿五日 くもり
二条院殿へ ふくあかり 御ほうし まいる いり御いはひ 三こんまいる
廿六日 はれ
女御の方まで 御まいり
廿七日 くもり
おつ御方の 御れいの よろこひ 申さるる
廿八日 はれ
あさくいり 御まいり
廿九日 雨ふる
二条院殿より 御まいり 御せんさい まいる

廿日 はれ
吉川より 橋本参上 吉田よりこゝろへ 白髪数より

九月

一日 はれ
朝より参上 料理より 権帥殿へ 御局より 文ハ 参いらせ こゝんより

二日 はれ

三日 兵部卿より御車まいらし

四日
権帥殿今日ハ御館ここにてハ 立ふたゝやうこそこゝろしのゑへ

五日 はれ
女御方より かきまいる

六日 雨
兵部卿宮御車まいらし

七日 雨
あま殿より吉川より

八日 はれ
のせんかたハ人数ハ条殿近衛殿中山あま殿西園
院殿御随より きたの方 野々宮 吉田殿 やふさわ
三条殿 あきらけ ちとせ中山より
都よりのきたよりまいる

九日 よし
朔日より出数多きハこれてよし 出入好し 夕方ニこんよ
家の方 西町の方なるハ不宜よ
十日 よし
好法院参るに来り一取る大きに乱の人々両へハ代乱とらるハこや
ふとらるハ参るにとら参るや一ふとらるハ見の事よ程よ
十一日 吉よ
出あしなる事なし
十二日 よし
大きに北人のなき一ふとらよ
十三日 よし
名月北の方の数きニこんよ
十四日
十五日
吉なる事なし
十六日
東都なるに川下るに参るよ
十七日 よし
花井西よりよ
十八日 よ
家の方ハ新しの物吉よ
十九日 よ

女御の方より御わたりの御祝とて、いちんゝてうし、まいらせらる

廿日 雨ふる

さかなとも入道殿へ御所より御こゝろさしまいる、入道殿へ

御所よりこゝろやうにまいらせらるしるしの事なり

廿一日 くもる

中の院より勧修寺のこゝろやとて、茶出しまいらする

廿二日 はれし

大ちの人くん御所へ御ちりのさいこゝろやまいる こゝろへまいる

廿三日

廣橋勧修寺のこゝろやとて、長橋へ二さ物かうし申も

同しく二ちよとゝしたいてまいる

廿四日 雨ふる

女院の御方よりきんかうさてより井内殿なる御数寄ちよくいきんのまいる

廿五日 くもる

御蓮院より御人数の方へ山本殿数寄右大将殿河野

御数寄西洞院お祝之

廿六日 はるゝ

ちう殿宗安よりのこゝろやうまいらる

廿七日 くもる

大かめの人々ちかつきの御祝まいる

廿八日 はるゝ

御ひんかう御人数八条殿三条殿近衛殿西洞院殿

かゝ中納言宰相阿波殿御禮之志賀筆数ハ菓子この御たる
そなたより御所よりまいらする 朔日のことに女院の御方へ
御門へまいらする
廿九日 なにとなし
女院御所へ御まいりあるよし
卅日 はれ
女御の御方より吉田よりこのたひ御ふみにて御たいこ殿より

十月

一日 なにとなくやうやうなし
御はつ御まいりにて朔日のいはひ 御祝にて 女院御方より
御そくにて亜相廿三年忌にてまいらせらるゝ 御まいらせ 如法院殿
ハ難有事ともにてまいらせらるゝ 御わうの御たいこまいる
二日
なにとなき事なし
三日
御蓮はうの人数多き殿より 五三の御所さまへ御祝也
志賀筆数人にもさいはん数 廣橋御けん御わたし
さよりくさく御所にてもさしさんあいの御たいこよりまゐらする六の宮の
御方の誕生日にて御ちんそうしまいらせらるゝ十老久しく
御ゆふ御すくて きつふの御はんく めでたの御所さまへ 十てうあけし

御上らうせいきよくわん先にして禁中へまいらし十てう一ふ御進上

四日　くもり
なにの事なし

五日　晴
弁内侍ゟあそんちやうまいるよし申さるゝ御上らうの方へ
あまのゝ申されしる

六日　晴
うこんのすけ男子生候よしきこゆる院御所よりいろいろくたさるゝ

七日　晴

八日　晴
なにの事なし

九日　晴
いゝのとの方へたゝけんにて出御なし女房の三こんまいる御供
大すけの方へも女中れいのことくちいさき御所へまいる女房も
いはい内々にて御しんしやにて御進上
女中の方ゟも御まいらしらる

十日　晴
御所にて八条殿男宮十人参らせてひいなを女御
の方ゟもちんまいる

十一日
新院にこりんつにて御進上福しまたいふのなかへ百こまいる
五百疋進上法皇人々はなやかにまいらる十てう

はつ花二をりまいる
十二日　晴
ことなる事なし
十三日
あん性うゐんまいる
十四日
宮の御かたより御拝事とて　なし　贈ものまいらし　中内侍殿より
御局御内侍　年内侍　三位の局
十五日　雨ふる
けふ日御ひる　五時分に皆々御出にて　八条殿　大かく殿せうてう
院殿　新内侍殿　近衛殿　大ゐ殿なる御あふひとも参る　女院御所より
いつものこと〳〵あり　〳〵御局　女御御まゐりもあり　〳〵御局の御あまさへ
さ　女中の御局大かく殿御まいりあり　参る
十六日
御あるまひとも　いろ〳〵　参る　御まへにて御通あり　御礼まいらるゝ
つかし
十七日
十八日
ことなる事なし
十九日
筆墨小硯さしあけまいる
廿日　晴
ことなる事なし

廿一日 くもる
いぬの時ころ方々かいけんてうしゆすし 将軍の渡らる
夕方より薬師のもとへこゝろよく御なるしらる
廿二日 晴
西堂殿まいる事なし
廿三日 晴
板倉御りん参る
廿四日 くもる
せうかう院殿より世んさいまいるいつものことく御いはふ
廿五日 晴
ふしや大夫 殿下（松平のかみ）いふまてもなし

廿六日 晴
せうかう院殿かたへなさる
廿七日 雨
女院の御かたへならしまいらせらるゝ 将軍の御まひとのくる御けんさう
二 まつりことの御しるし
廿八日 晴
安芸御ぢ参る
廿九日 晴
一 升内殿なる御事ものこと いつものことくまいる
三十日 晴
方々御いはひ参る

十月

一日 晴

朝ハなりたち（？）ぬかの御いはひ大納言殿さまの御まいる平内侍殿ハまいらるゝ　女院

夕かたの御つき三こんにて女中男たちハよろこふなる

ゆハ（？）御ほうまいる

二日

あさまや安房守ハ扇まいらする

三日

呉服ノ事かし

四日

称まつのかミ藪にて是よりも長橋殿まいる

五日

开円後にていつものとくハせんさくある御所に

六日

御ちそんにてハふるまひあるハ宗和ゝ内ゝの北男たちハくに

御ふくろ夕かた女御ハかたなし宗瓦にて御三こんにて御あつ御俵の

御方女御ハ方之女中衆ところハよろこふなるまいらるゝよし

女御方へまいらるゝ

七日 よし

女御方まけにて三ちせんの御きよ安房守 松葉三こんれ

扇まいる 誌（？）まいる十てう一疋まいる

八日　廣橋前亜相参上

九日

十日　異なる事なし

十一日　按察殿より御所の御神拝とてくこしのちん物まいる

十二日　右中なる事なし

十三日　吉忍いの長老かしこの長老妙きんちの長老より御礼一こん参上

舟田より御礼十てう一包参上　伊勢新上人大きやう十てう出
扇ちらし蜜柑一折参上　清涼殿にて御対面
あり　紫蔵の吉や勢ちこより御礼　ふあゐより對面ありて出る
三合こより参上　御遍照院の長老折参上にて川ことより御礼申とし
術舟より三こく参上　近衛殿より宮の北んち女院御所にて

十四日　雨ふる
こんかうしふる

十五日　晴
女中御酒ハよみ参る

十六日　晴
異なる事なし

一
十七日 祢まいりにて 薮台て いとまいる 長橋殿ゟ参る
十八日 女院様ゟ阿ちゃゝより大いちの人々あまた御礼に参る
十九日 てんき
廿日
廿一日 晴
廿二日
あさ方御事なし
廿三日 晴
けふ参り御祈りにて ぬし 般若心経
廿四日 晴
女院様ゟいほのとて蜜柑ゟ
廿五日 雨ふる
長橋殿ゟ御初穂の御祝儀 けふゟ寿命まいらる事とて
ゑんてとりまいらせ 片桐ゟ御くしくたさる
廿六日 雨ふる
御軍ゟ去年ゟ御使ゟ まいらせ 御もんく参る 御人数
近衛殿男たち二三人 御出候
廿七日 てんき
是迄も事なし
廿八日 雨ふる

諸大夫なり武人なる十てうとんとう一つゝつゝ御よう胡籙
まいる弓まいりて藪をていさる出御なる

廿九日 はれ
西二院殿弁内侍殿なるいろものちやくまんおもくなる御所へ中院
御かたへ出雲殿吉田殿へまいらる

十二月

一日 はれ
朔日の御祝い権大納言中内侍殿いつもの御さかつきまいる
夕方いつものごとく三こんまいる女御方なる女中衆たち
御とこの御祝内侍殿より御礼一荷まいる

二日 晴
呉竹の御事めし

三日 晴
大外記御祈の御礼とて御樽三色三かまいる

四日 晴
返禮殿とて御樽三か物より女御方より御樽三かまいる

五日
おかたまちの院十七年とて御経供養清涼殿にてとりしまる院
庭前の西園し三条西ゟ宰相中将権弁之

六日 晴

七日　雨ふる
女御の方ゟ御文まいる
ゆり志んまて行幸ニ付十人斗まてハあまりのよし
八日　晴
ゑもん志ん志んの女中より申つたへ候十日まて
九日　くもり
花堂御写事御し
十日　くもり
太政の人いよいよ御出世ニて さんさん盃まいりいたし候よし
十一日　晴
ゆり志んより男衆十人斗まてまいり候 入江殿ゟこん上なり

十二日　晴
呉服の手紙し
十三日　晴
女三宮の御姫宮いまた出しこそ御あそひにて盃一献
十四日　くもり
御息所さまとやらへ御出しハ行とて十一かうまいる
よし行御機嫌御伺あり
十五日　雨ふる
御誕生日ニ付盃一こんより大宮のうち御献ニ付祝之
十六日　くもり
板倉久しらくまいる

十七日晴
女御の方ゟとこ御しらる　七観音へハ代参んの御所ハこや
いふく進上 ことそふんこへ せんさうの日消息めしのあり
御めくくこしハ進上
十八日くもり
大すけとのしん方ハ年よりとの御樽三色まいる
十九日晴
山しなとのハちんのこと御めくくこしハ進上
廿日晴
女院の御台かざ三一折まいる
廿一日晴
東の方御さん御めくくこしハ御樽三色まいる 此御台御まんくくまいる
御枕ひ御さんそうらひ御ちやう次の御としのまいる
御目出たしくくまん御台ひこまいる
廿二日くもり
女院の御台の御まんまいる
廿三日晴
女三宮の方ゟ御樽三色まいる
廿四日晴
正三位殿より いつものくくつきんかうさんまいる 御花まいる
廿五日雨ふる
女院の御台三ちゃう御まいる 御まんまいる 進上二こん

まいる夕かたに三こんまいる御とこなへもいつものことくは御湯殿の
うへえいにとふりを御覧せしあけほの
廿六日雨ふる
九条殿関白の御礼とて御樽五か又しろかね関白せんけ
のちんのきにまいらるゝとんも二度に御対面ありてつゝみんなる
廿七日ふる
呉なる御車かし
廿八日ゆきふる
胡の進まいる
廿九日雨ふる
たうくかた小乞数々なる

三十日晴
御とこなへはさい御所のしるしとして御しるしは一こんなる
よし田かいらひなる

慶長十四年　つちのとの酉のとし

御ゆとのゝうへの日記　巻四十九

正月

一日　はれ

四方はいはまいり　右大弁　孝房　御せん　御てなか　頭弁　総光朝臣
御さゝかい　右中弁　宣衡　ちやく九人　ねしく　きんちゝゝえんへまいり
御ちやうちやく　右衛門佐　永慶　業へちやゝく　民部ちやう　雅胤
小てうはいせちゑなし　たくきんのちんはいあし　ての七ふ

かしおひらきのちや大ふくろ頼のあまたる數そとい新大納言平
内侍所さぬきなとのおりるこゝろけとり新大納言長橋御局
大すけ人々女院の御方女御の御方らゝいとをいのおしおひらきのちの物
めでたしくの御方のあまた三こんらたのお伴衆の方女院の方女中男たち
いとおりのま女院の御方へつれてまゐる御杉原紙三十そく白きの十枚つゝ
三こんの方へ十てうつゝまゐらせられしまゐりて女御の御方へもまゐらせらる
まゐる白きの三枚つゝしなきちゝんのあまたる御ちそうへ別殿へまゐらるゝ
おもて三こんらたち女中にもまゐる

二日　はれ

おしおひらきにて大ふくろ頼のあまたる数をい権大納言中の
内侍所いろもつまゐらせうけとり権大納言平内侍所名内侍所

さぬきなとへうけとりもとのあまたるいとのちぬのあまたる名くろ
あまた三こんらたちに御所らいお伴衆の方女御の御方之女中男たち
ちのとりの男たちのおふきわさしいろむかいもめいむけりつも
いろ御ふくろ女院の御方御ゆへもと物くくる

三日　はれ

御しおひらきの大ふくろ頼のあまたる数をい新大納言なと
いろけとり大納言中の内侍所いろもつるもまんのあまたる名くろのあまた
三こんらたちとちもたるいお伴衆の方女院の方女中男たち
いれもかる

四日　はれ

頼のあまたる御殿その帝正の御おりつ白きの十枚つゝ
おりくもの方てもたちおりゐ白きの二十枚

まいる　帝正杉原十そく　十枚まいる　中院より杉はら二そくまいる

五日　はれ

朝の御まいりあり　杉原紙まいる　此あいた御忌月にて　御しん般舟院にて御法事あり

御経は門跡よりまいらるゝ

六日　はれ

朝の御まいりあり　なか照院より花まいる　松の尾よりも松まいる　返献の

御まいり　そのゝ人殿より御たる　かのしきんに短冊まいる

かのしきんのさし十てうまいる

七日　はれ　御まいる

御まいる　朝の御まいりあり　たかの御はしまいる　朝のまい

権大納言殿より　女房の御まいり二こんあり　大すけとのより

大すけとの殿より御たる　女三宮の方へ　御たる　御まいり二こん

御献あり　やうやうまいる　上ていちくの御わたしまいる

八日　はれ

朝の御まいりあり　御ふたいけんあり　御たる　御まいる　九条殿より

御たるまいる　しきんの御たる代は百疋まいる

九日　はれ

朝の御まいりあり　妙法院よりあけらるゝ　御たる　権の殿より升の殿

よりもの御たる　ま上の殿より　御たる代十枚まいる　そ

中納言より　ひいしかふとまいる　大納言大すけとの殿

九条の方より　方十こんの方のれいまいる　御まいりあり

いせのさいしゅよりいつかいのしゅのれいまいる

十日　はるゝ
朝かれいに八条殿よりの御樽みなとのより宮の御かたもの御樽より鷹
司殿よりの御樽まいる院の御所よりの御樽大かう人自御所へのまいる
いつものことく御ゆめ小猿一こんにてまいるやうめのとまいる

十一日　はるゝ
諸礼にてあさからの出殿の御樽より近衛殿鷹司大納言殿より
おなの御かはらけの御盃二こんまいる殿下近衛中納言殿八条殿せうより
こゝ院御所并四御所よりおなの御かはらけの御盃二こんまいる二条
殿よりの御まいりにて御対めん二こんより伏見殿宮御かた女院
とのゝ出てし梶井殿の出てしおなの御かはらけの御盃二こんまいる
の殿下清涼殿にてたいめん御殿のきりにてし入江殿出まいる
院御所の出てしおなの御かはらけの御盃二こんの殿下右御所の御ゆ
ゑんせんのえんとのゝ御かた朝かれいにて鳥の御かはこ三人日野父子
柳原のはし御しきにて御盃いてまいる中のきうとの御ものゝ御升
父子なんてん御くしの西親町の御かはこ御とこにてんしいてまいる
近衛殿より御きかくより右御所大僧正の御前大たのしてまいる
さいの御しはのゝの十こ御上さいしの御伊せの御せんしゆうの御ち
御とこなにとし此おるこにくし

十二日　はるゝ
朝かれいまいる

十三日　けさし
朝の御ゆうのきよ

十四日 おなし
朔の御ことあり 女院より御へたらいきやきん一荷こもみまいらせらるゝ
こよひの御こと

十五日 はれ
朔の御ことあり たかの物二ゆの御ことまいる 新大
すけ殿 新内侍殿 御ひとふりにてまいる けふのりやうきんにつかへまいらせ
らるゝ みなみは御まいる二こんまいるこれにて御あり

十六日 おなし
親王の御かたより前将軍より御礼に大すけの御かた 清涼殿にて御あゝ
将軍より御たち折かみ 御馬一疋 白銀百枚 十ておまいる
宮の御方よりはたち折かみ 白かね五十枚より 奏者はけひかしの少将

のされこのたち折かみより 御たち代三百疋 大すけの御すの御かた代
三百疋 宮の御方へ 関東よりまいる二 御あてより御申
おさしけふのりやうきんにつかへまいらせらるゝ 二酒二あり てあり
女中にはまいらせらるゝはいのみ

十七日 おなし
はくらいより大坂へ清経よりはうんへ伏見に二こんまいる
宮の御方より 親王へはまいる一疋 ふくろくへ 十おかて 姫宮へ十かへす
宮の御方より 宮の御方へ御たち折かみは御まいる 白銀十枚 おふくろくへた
こよひ十夜 おなし

十八日 おなし
はくの物まいる

十九日 はるゝ
太閤より北野の御しゆけなきよし申
廿日 はるゝ
たふの御いのりのちんに一こんなと前関白殿ゟまいる
廿一日 はるゝ
女院の御方さまの御いのりの御ふたまいる
廿二日 はるゝ
昊天たうのはし
廿三日 ふる
風ふところへの御いのり
廿四日 はるゝ

昨日夜たいくわうの御くゝりせんかうて上
廿五日 はるゝ
一条殿御あとよりへ申さるゝ九条殿御あとは近衛殿へ申し候
あとはさきよりまかり出しのよしけふみまいらせられ候
广橋大納言勧修寺中納言三条さいしやうの中将あせ
中将十四日十五日のかすの御方へ御ふく二つさくもんの御
らうし山のもの御ちやうきんりん自他ともに大天気にてあき
いそれのきさる
廿六日
廿七日
昊天御所に事なし

廿八日 はれ
九つすきなる 一条殿より十色十かにてまいる 二こんにて 御たるまいる
廿九日 はれ
ゑちこの方なりの御ちやまいりしも
上﨟かたへまいりて方々より御てうし参 長老みせいらる 色々御中よりまいる

二月

一日 はれ
御たる参る 錦のあいさつ 陸奥殿中納言殿さぬき殿いまゐらる
御盃三こんにて御所ハ御女御の方女中男たちへとまいる
ゑちこの方より御かたの御あれのまいらるる

二日 雨
三日 はれ
呉たち御車あり
四日 はれ
女二宮の方より御見まいらせらるゝとて御参りあり
五日 はれ
鷹司殿へ御成りあり 御帰りにてまちらるゝ
広橋之ゑちこの方よりちらしにて御無事之女二宮
ゑちこの方より御二色にて廿そろ院殿なるよりせんかうまいる
六日 はれ
呉より御車なし

七日 くもり
呉たかゝの船し 南せんしみせいて候よしこ来ル
十てう菓様の御参上

八日 はれ
御きんくるゝ人数道衛門中院ゟ御出 翌日より参
議人将兵衛大人出雲等ゟ参りのうちに菓のこれ取まく
こしらへ屋敷まて参りてより候へ駕籠中院ゟ御
播磨守さいしゆてん出張こゝ二まての御参上 治出張に参
十てう事ゟ御参上申しの御出候けなるゝ二ツ参上申出
うらきんこしれとまてうち十人斗 御出の事ゟひきたる

九日 くもり

呉たかゝの船し

十日 くもり
女御よりの方々参らる

十一日 くもり
京よりの方々出雲の御参らる

十二日 はれ
ゆうしんこしれとまてうち六七人御出まての使ひきたる 南出雲
参上

十三日 くもり
大ッちれ人々ところ〳〵参りきんしゆうの屋らる

十四日 くもり
出雲ちとり 松葉十帖のふとまいりらる

十五日　雨ふる
女中いん御所よりさゝの御まん大すけかたへ御たるまいる女院
の御かたよりもしけの御かたよりもまいるちんしゆ院へいつものことく十てうまいる
出さるゝ　近衛殿のまいる
十六日
異なる御事なし
十七日
つちやひこさ女院の御かたよりかし八条殿近衛殿大かう殿せう
れん院殿舟田殿なと内ゝの男たち廿人斗御さかなにて
清すゝ御さかなにて清水の酒いつものことくまいらせらるゝ
いよしくん夕かたより御さけきこしめさるゝ

近衛殿よりいつもの御樽まいる　勧修寺よりいつもの樽まいる
十八日　はれ
ちやうしんへ別殿になさるゝせんにいつものまいる　女中の御ちやあそはさるゝ
また女院の御かたよりいつものまいる
十九日　はれ
女二の宮の御方の御まいりへ御ふく二つきの御ふくらし杉原のまいる
廿日　はれ
平内侍きよしくへの御祝とうのこちんまいる
廿一日　はれ
女院の御かたより申さるゝ
廿二日　ふる

く宰相の清水のへ参る中弁ハくるいのうちよりまいらるゝ
廿三日 はれ
女院より御わたしまいらせらるゝ
廿四日 はれ
西の院の御所より御たるまいる せん御所の御ことまいらるゝ
廿五日 はれ
山科へ清水の御参ハ参る のちへのりものあけらるゝ
廿六日
廿七日
ゆふかた雨ふる
廿八日 ふる

ひかしの人数八条殿近衛殿広橋殿飛鳥井殿 伯殿六七人
きのふのせんの御ことの御まいりにて
あすのとをりまいらるゝ長光西の院十七日の御
めてたし 朔日の事なり
廿九日 はれ
ゆふかた雨ふるなし
卅日 はれ
女御の方よりまいりて御わたましもあるへしと申さるゝ

三月

一日 よし
朔日に生る子ハ[illegible]この道ハ稽博なる人なり伊勢之[illegible]
ハ[illegible]いつゝもめでたく三ごんなり
二日 ふる
いつまでも身ハ延生あるべし[illegible]ん[illegible]し[illegible]けれ[illegible]一ごんなり
三日 ふる
朔日に生るゝ子ハ[illegible]の道ハ稽博なる中の宿なり[illegible]の[illegible]り
いつもめでたく三ごんなり大事に人を[illegible]なり
四日 よし
中の[illegible]たる[illegible]ものなり
五日 よし
[illegible]いつ[illegible]のせん[illegible]
六日 よし
[illegible]
七日 悪し
女[illegible]いい[illegible]あげ[illegible]の[illegible]二ごんなり
八日 よし[illegible]
女[illegible]なり
九日 ふる
[illegible]
十日 よし
[illegible]
[illegible]

十一日 てんし
ちやうなか御車よし
十二日 けふし
女院御所より梅ゆるしらる
十三日 雨
ことなる事なし
十四日 てんし
女院御所より御はらさねなるのたれるとゝらる
十五日 てんし
ことなる事なし
十六日 てんし

この頃せ御法くらる女院の御所かへりいらる
十七日 ほそふる
近衛殿へ三条院殿一条院殿をまいらせてのほりまいるよし御所七日の
めしの人々ともゝふうふひてる女院御所の三人御方 日えん
まちのへもしまゐられる
十八日 てんし
ふてのひきさうもとも広橋大納言殿より法事史一人まいる
十九日 てんし
女御の方よりふるまひてのめしして
廿日 てんし
ことなる事なし

廿一日 はるゝ
さぬき殿より きくの ふけらる 大すけ殿へ 御たる 殿より 御まくの代
むかしの事とて 御ゝ より 大たる 正月より 大すけ殿へ 一荷 まいる

廿二日 はる
女院の御所より御まいりある

廿三日 はる
女院の御所より御せん 申内侍殿 ところにて

廿四日 はるゝ
きのふ ありかたく 御まいりの事にて こまかせんかう まいる

廿五日 はる
よろこひのあそはし

廿六日 はるゝ
女院の御所より御むかひ

廿七日 はる
女院の御所より まいりて さうてんへ 御てんと なりし まいる こん三こんあり
御とまり きのふより まいる

廿八日 はるゝ
女院の御所より御かへりにて 御たる まいる 御しやう まいる

廿九日
御寺より 御まいり 白鳥 御たる 御代として まいる 女院
へ 五十枚 女房へ 二十枚 まいる

四月

一日　朝かれゐ　まいらす
朝かれゐの御いはゐ、権大納言御はいせん、御方の御所御まいる
こん日の御侍に一方女中、御方女中、男たちいつものことく参る、本院
の御かたより御さかつきまいらる

二日　はれ
せいくわう院殿寛永寺へ御なりまて、おくへいらせあそはし候
にも、御はつのこと、いまとひとなる事なし、御あそひ大すけ
御まいらる

三日　はれ
さぬき殿御さかつきまいる

四日　はれ
いなかとの御すし

五日　はれ
舟田殿なる御せんまいる

六日　はれ
さぬき殿御さかつきまいる

七日
ことなる事なし

八日
せいくわう院より光院さまの御いみにて御しめしのまいりたつね参り

舟田殿まいる

九日　はる
大りう寺殿人々うちまいらるゝきんえ男房にも人々まいる
十日　はる
大かく寺殿人やそれ／＼まいりまいる御祝ことてまいる御あはらしめさるゝ
十一日　はる
ち大なうこんの御しさいあさまいる御服をいらし
十二日　御とりかはらるゝ
女御かたよりこの御かうの名物とてまいる
十三日　てる
大かく寺殿人々まいる御まいる御したいまいらしよ　御たいつしとも
ほかにちいよ人めを

十四日　てる
ち大なうこんの御しらる
十五日　てる
にし殿いわつくりく　女中まいる
十六日　はる
大徳寺よりしゝゝまいる御所十てうしまいるてまいる
西園寺御しまてまいるてまいるちんの御所
清涼殿の御きんきん一ほんまいるまいる御方へ御祝
みなまいる女院御所女御かたより御まいる
一こんまいるまいる九人の御所へまいる
十七日　雨

十八日　はれ
　正たいなる事なし
十九日　はれ
女院御所ゟはふくさまいる女御方ゟ同まいる
廿日　はれ
めくり御所へ廿の日にて大すけ殿へいせの御わかれにまいらるゝとて御いとまこひのやうにまいらるゝやうにてちやうくにてまいらるゝ也御らんして色々くたさるゝ
廿一日　はれ
廿二日　はれ
　正たいなる事なし
廿三日　はれ
大すけ殿へ御ことつけまいる
廿四日　はれ
升田殿ゟ御まいる
廿五日　はれ
女院御所ゟ御をひ二すちまいる
廿六日　はれ
　正たいなる事なし
廿七日　はれ
女院御所ゟ山王へ御代参に御かくらまいらせらるゝとて御はつほまいる
廿八日　はれ
八条殿ゟあん殿ゟ男たき御三の御たきにて御まんく申さるゝ

おそくなりしより大すけ御所よりまいりてくつわたいのあゆまいる
うつきあまりたけのこ進上

廿九日 はれ
ちうくうより御かゆ御所よりてんかせんのこ進上 大典侍殿御所へ
いよ御わたりいらや　ゆきちくあつきやくのいれ十てう
つこもり

五月

一日 はれ
朝かれひまいる 新大典侍 中納言 御所さまへまいらるヽ

夕かたいし川殿より御かゆ入 こんふ十ほんまいる 女御の御方 女御方へ

二日 はれ しちくわらふる
平内侍との姫宮いまヽ方まいる くし三色三かへ

三日 はれ
いまいらせられ御わたしの御使進上

四日 はれ
女御方より御わか久御所より

五日 はれ
あさの御いはゐ 夕かたよりこんちくより御所の方へ
朝かれいいふ典侍 内侍所 御たるまいる 広橋殿
女房たちまいる 御あふき進上

六日 はれ
若狭[illegible]清[illegible]一つ[illegible]

七日 はれ
女院の御所[illegible]八条殿[illegible]女ニ[illegible]

[illegible]七八人[illegible]

[illegible]

八日 はれ [illegible]

[illegible]院殿[illegible]

九日 雨
[illegible]

十日 はれ
中納言殿[illegible]御祝儀の[illegible]

十一日 はれ
女御の方[illegible]

[illegible]

十二日 雨
[illegible]事[illegible]

十三日 はれ
池田信濃殿[illegible]白銀三十枚[illegible]

[illegible]

[illegible]女院の御 女御の方[illegible]二人[illegible]一

[illegible]

十四日 はれ

女御の御かたよりくこまいらる
十五日　はれ
いせとのよりくこ女中心経よまるゝ
十六日　はれ
池田侍従にんにんのかはりとて白かねの御まく女中へいつものことく
の御まいりにて女中へもまいる
十七日　はれ
大かうさまより御事頼し
十八日　はれ
伊勢のおはな　松茸廿本まいる
十九日　はれてこゝろ

呉服の事なし
廿日　はれ
つねの御所にて白かねの女院の御かた海老ふくろ侍従かたよりまいる
廿一日　はれ
女院の御かたより御さかなまいる
廿二日　ふる
御所の御かたの御行水にてりせんより女中御うたあそはし
廿三日　はれ
呉服の事なし
廿四日　はれ
上らうよりせん御まいる

廿五日　はる
廣橋とのへ参らる　女中内へ参る

廿六日
なにの御事なし

廿七日
女院　御所へ御あそばさるゝ

廿八日
なにとも御事なし

廿九日
中内侍殿よりせんかう参る

卅日　はる

さく内にははしめいらるゝなと御出家ある

六月

一日　はる
朝の御さかつきあさかれいにて大典侍中内侍殿候へ御まなかつほ参る
女院より御かゝみ御まいる　本院殿御所より御いはひ
御けいさうの御方御菓子三こんまいる　衆よりはね伏らの御方女御
の御方女中御とゝのへまいる

二日　はる
女御の御方へ御やうくあはせのちやんある

三日　はる
吉川の米あけのこと申入
四日　はる
平田侍従より御ゆみあそはして御樽三かまいる御いはひ
いらい三ふ二こん平田侍従よりこわくにのさかなにまいる
五日　はる
右京殿御ふみまいらせし
六日　はる
やう二の宮へまいる
七日　はる
北野への為に九水か御酒いれる
八日　はる
女院の御所より帝へ御まいらせらるゝ
九日　はる
女御の方より御樽まいらせし御まなまいる
十日　はる
ゆ(?)きんとのとこのよりこれ人まいりて御ひくさかなまいらせ申入る
十一日　はる
女院の御方へならせらるゝ
十二日　はる
板倉山(?)まいりて申入
十三日　はる

女御の方より為わくはつ始まる
十四日 晴る
実教しきて 紫宸殿にて男たち十二人めして
の御あそひの御つゐしも 女院よりわたさるる
十五日 はれ
御教よ沙汰にて心経よりまいる 女院の御所より一ふくさつささるる
の書きやう しるさる
十六日 はれ
うらうらとして よきひより
十七日 晴る
ちや、つちおん人まいりて おんまいる

十八日
れとうちまてゐんへ
十九日 はれ
ゑんふるの新中十てんへまいる 宮親王よりてうしろ白川
やくしへの御新よりの御経まいる 御つかひの事けふめてたし
廿日 はれ
なふちまひの庭に風ありて
廿一日 はれ
ゐるほりの院庭にあつまりまいる
廿二日 はれ
出きうめん御心はしめてつかはさるる

廿二日 雨ふる
女院の御かたへなる 女御の方へもまいらるゝ
廿四日
くわんしゆ寺殿御まいりにてせんまいる
廿五日 はるゝ
女院の御かたへ御ゆふさりより御くるまにて御ちやうちやくにて御拝をなされ
くわんしゆ寺御まいりにて御あそひのくゆへ御ことゝもせられ候
はしめてひのへ御まいり御ことゝもあり
廿六日 はるゝ 雨ふる
まいりとし志やうさん参上
廿七日 はるゝ

御方へ御参上申し
廿八日 はるゝ
勧修寺殿より せいくわんの院より御かんもんとて御せん御用あとてさん百十
廿九日 はるゝ
この秋月のまねにまいりて御ゆふに御ちやう給り御ちやう給あり
つきたちのけちえんとて御ちやう鞍の御樽参上

七月

一日 夕立して涼しくなる

朝の御あさかれいにて ちかくて まいる 御ちよひの御まいらせられ候く
らんけいの御こと候 れいのことくちのとゝのへの日にて候

二日 夕かた 御かゝる

三日
ゑんそうの御事なし

四日 なし
新大納言 按察使中納言 勧修寺中納言 さいしやう けふ人
あんないとしるして おやくまいる御まいる 御まいる れいのことく

御のまゝにて 御ゆ

五日 なし
市正より 三日 法白 三日のまいる 女はうより さいしも 日

六日 なし
大すけより 文(?)三色三つ 御まいる 権の御方も 日より 女はうさせらるゝしの
御ゆるされ 女院の御とく 女中衆まて 大すけより 御女三
文の方 女はう 女中へ 御ちん人 二つ 三つ 女院殿
日より 光のん(?) よろこびに まいる

七日 なし
七夕の御ことに 花とも まいる 里 御よろこび 二て 女
院の御方より のちのまゐる 一て 御よろこび 申して まいる
朝の御あさかれい 三のまいる 人 御まいる
ちうの方もまいる 女はうもまいる れいのことく 御まいる 日
いよいよ 八条殿の御よろこび まいる 大すけ 人々 まいる 九条

の御方より三色三かより近衛殿日野殿よりまいる

八日　はる

大典侍殿あさこて　けふの月見らるゝ　御方より御かへの御ちの様まいる

妙花院殿より三まへの様　妙法院殿より二色三かより同六条殿の方より

の様より御ふいゝめてたき事の御祝七こんよりの人々まて御いわゐ

宮の御方も女中もつらなし　御ゝいわいの也　御あしにもて御まいる

あてはとまり　殿上人数ゟいとうる　宮の御方大納言殿二条殿

九条殿の御方いつゝやの御方十のとやの御方ややゝ　女中御さしにて御一こんまいる

御ち姫君さま一こんつゝ御こんより　御所にも御ことひゝへ一こんいゝ

まいりてさけのよけ候いとう　いせんに　八条殿の御方より様より　女院の御方へ

いふくのおひより　宮の御方御いわゐへ　ふくより　女中で御のほりて　九条殿の御方御むかひ

いゑ上より入道殿より御たるまいる

けさ紙一段と大きく

あさこ明宗殿の所まて給くて殿上わする御ふし網代卜

ゟ御てる

九日　はれ

女院の御所めてたき事にてなにとしても御さかなの御いゝまいる三こん　三条殿の方も

なる　女中もつ御供して様三色三かより　三条殿ゟ　御祝の様より御所へ

あるより　いとのとくの様より　大典侍の御かたより一こんより御所へ　中納言

まいりて　御祝　殿上人々まいりて　とらしとて

らうそく　二百丁　浩一荷　ともに御所へ　御所の御祝　御ゝ卜

御かたさまより大方殿へ御まいる　ともにより　まいる

御さかつきまいる。御くしあける太ちの人へつかはさるゝ。いつものことし

十日

女御かたよりまいる。女二宮の御かたへ三色三かまいる。女院の御かたより

若宮御かたへもまいらする。女二宮、若宮よりもまいる

十一日　おなし

女中なへまいらせらる。升日の御かたの御まいる。女院の御かたよりまいる。大か

くちなしの御ちやう三色三かまいる。日の御かたの御方もまいる。女院の御かたよりも

てうしの御はしの御さかつきまいる

十二日　女二宮の御かた御まいり。日の御かたよりも御まいりあり

内宮御文のあらそひてまいる。御はらかのあんの御はらか上々てん

そうのへん、さいしやう、中なこんへくちんの御まいりあり

〔十二日〕いりの御まいる御あそひことさからの宮にて御かたへまいる　三色三かまいる

十三日　おなし

太ちの人のまへの御所にてまいる。これにてくしあけらるゝ

いつものことくまいる。女院の御かたよりあそひことある

十四日

御とんにちんらのいたゝきてまいらるゝ　板倉周防守

女中のものにはきけんにまいるよしの事にて御所の御事也

いはちいさき御ちゝの御ゆかたいつもの中将へまいる。周防守へまいる

ふく御升まいる

十五日

御とう御とんなる御飯のまいる。女院の御かたよりまいる

く御ゆへまいらるゝ御仙洞よりのしやうくわいはんしよう地
ゆるされ候はんの御はいつもの事ともまいらせられ候 御ともすれ
やのしゆいとうりのさ御方よりも女院よりもまいらるゝ 女院よりも
いとうゝらんしこなたの事とも御ことにいさゝきのこゝろんして
いへいのまいらせらるゝ 大すけ女院大すけ御ゆとのへまいらせらるゝ
光女中へ御かへり候て まいらるゝめてたしくわんしゆのへんかうんて
つおもて思ふまゝあらしいなきしゆへなをしまいらせて御ゆはらそ

十六日
いとく御ゆなしくたされ

十七日
御ゆまいらる

十八日
一天なる御事なし

十九日 ふる
三宮の方より西二條院宮の御所の御事とて〳〵まいらる

廿日

廿一日

廿二日 ふる 御せちなる
おとなの御中あらし

廿三日 夕立ふる
女院の御かたより川とて御ことまいらる

廿四日 ゆきふる

さんしやうえさせ申さるゝ申ていつものことくまいる

廿五日
大かくし殿御車見物し

廿六日
女御からさんしやうまいる

廿七日
女院の御所より女院へ御まいりにて　板倉伊賀守まいる御たいめん

廿八日
朝かれいまいる

廿九日
御てうけ候ほとにて大すけ殿まいらせられ候

卅日
方々より御礼まいる　板倉伊賀守御いとま申上　女院の御所へ御礼申

八月

一日
たのむ
こゝかしこより御たちまいる　女院の御所へも御たちまいらせらるゝ

二日
内々の御所より御たちの御のしいつものことくまいらする

三日
内々の御所のことし　女院の御所より御たちまいる

せう〳〵院夜宮宗々は上らくなとてはえとてはなの首をらる〳〵 二ふすゐ

四日 はれ

勝仁の大河相金国勝られて今夜の女中のらんぶいけて

らんの御まとしていてまいるも御所方たらんまとのつるしまいれ

うしとうなんもなまきまいるとはまいるめいらんよしの中にはらしなよ

将軍よりも清の御はちれたりまいりまて 御所方よりうつりまいるも

つてうへとのつるありあかの中にはらしなまとこつききつけのはきゐう

はさんとのよし 勧修寺中納言内 三条中納言は使なり

将のくいさんまて 清源院まいる 御樽ひんまいらんとのやうにはいさまいれ

うたりのとち思ひはまし まいつと仰つけられは ハんと思ひそていそらふん

屋つゝやと清まんするおはりあかの中にありまいる 大波へ日と

出さるしれて

五日 はれ 一し

女院よりのちんすまいる 大すけよりまいらるゝなる

六日

七日

八日

呉なる御事なし

九日 ふる

大すけよりまいる 一つけらる きつはの記をまいる

十日 ふる 風吹

たいしやうなる事なし

十一日　はれ
かうしんにて御あそひ女中へ御ふるまいにて男たち御まいりなし
十二日
女院御所へ御ゆきなる女御方も御まいりて御とまりなる
十三日　ふる
長はし　御はらへあり
十四日　はれふる
女院御所へ御まいりなる
十五日
御誕生日の御祝いつものことくいはゐあり又八まんの御事とて
女御方へ御所より大すけして御たる一荷まいるまん所御かけ

まつり光照院殿より名月の御祝いつものことく一こんあり
うつしさいさい女中へ一こんあり女院御所へまいらせらる
十六日　ふる
新中納言殿より御たるまいる
十七日　はれ　さむし
按察使よりおりしりしらせまいる
十八日
久我より大すけして御たる一荷まいる又御所より女中へ御ふるまいにて一こんまいる
十九日　はれ
豊国へ両親町中納言ちよくしにてまいらるる

女院の御かくれさる

廿日　はれ

梶井殿へてんしの御つかひにて大すけまいらせらるゝ

廿一日　雨ふる

長はしまんところまいる

廿二日

江戸より軍の御礼申さるゝ

廿三日

下さけより御のまえにて梶井殿よりまいる

廿四日　はれ　夕立

内侍所の御かくら　伝奏の御使にて御まいりことにまいる

いせのせんくうに付内侍所にて前後のさいしんありてなり

ゆふへ内侍所よりふん大すけさかりしめしなりまいる

軍の御礼いちゆへんまいりてまいりてまいる

内侍のことさいしゆへ御まいり

廿五日　ふる

梶井殿へ内てしの御はしめてつきのはんしやうの御よろこひまいる

ふくろのゆへもんと申す御所へたちねらいけるなり

はらわりしるてしこれハおかしの見事にしてあれふく

内へいんよしけ候し又吉田へまいりてまいりおかしくんよ

申されて申へつまいらいの御まへ八条殿のまいりふくろちよく

もんこいなのはさ内へいりねとて上の方へまいりれ守　内

きのふけふの事ハ九日のあかゝいさんハめてたんとて大すけよりちよ
しけ花ハ事こなりてまいりて出てまいりしなる近衛中納言殿よ
近衛殿の御申しや事ハつたさんの御申しまいらせてとも
いこさ御たいなとハきんきんの御をうけせらるとて
ちよとてしよ御ふくん女院の御かたへもまいらせらる

廿六日 はれ

女院の御かたより御つかひにてまいらせらる女房衆まいる

大すけ人々こなたへまいらる

廿七日 はれ

内大臣兼宗なとまいらるゝちんのさま御まいり花山院

大納言兼宗中納言右中弁ちんのさまいとひのまいらる

廿八日 はれ

朝飯まいる

廿九日 はれ

吉田よりいらるとてまいる光教より女院の御かたへまいる

九月

一日 はれ

朝飯まいる教ゑいめてたけ女長橋より御まいり

夕方のまいりてのこゝろこんより文の方へまいりしまいらる

女御の方もいらせらるし男たちよりのこゝろいとふかう

二日 ふる

姫宮の御方百廿日のいはゐとて御ゆとのはしめらる

三日 同し

女院の御方より御まいらる

四日 同し

前将軍よりさけらる 若宮小御所より御まいらる

五日 はれ

若宮の御方より御まいらる

六日 同し

女院前将軍よりまいらる 将軍よりは 世の上人めし わか御上下

七日 同し

八日 同し

女院前将軍よりちんしやうあり御まいらる 鷹司大納言より御まいらる 〈ことに〉

まへの院より山科よりくしの花いろ〳〵の物ともまいらる 大すけの御方にも御あはせ

ことにまいりてこんあまたこもさせらる 女院前将軍御方前将より女御

の方へこまかのなこの御おりへいらる こさきへい女御さまへまいらる

九日 同し

朝のまいる女院の御なかしきは 〈よりまいらるゝ〉 御たいめん こんまいりて

御まいらるゝてしく〳〵 女御の方より 御あはせ 大すけ人々もまいる

こんあまたより御まいらる御まへへいるいろ〳〵のまへにこし すけ

いハいとて御おもてもいつもの 大すけいつものことにこんまいる

の方 女御の方よりまいる 御いてん 御ハなし まいりてはこの口きく

十日
長橋殿よりいとまいりて女院の御方よりかはりてつけて御まいりの御そて　柿一ふた

なに事なし

十一日
女三宮の御方大すけ御ちの人たちふたまいる御ふくいさてなる大すけちち
まいりのまいりふくいてくるしゐさけ候女院の御方へまいらる

十二日
女御の方より御せち候

十三日　ふり
大いのみかとの御いとみつけとて柿一おりさんたいまいるいせの
せんくう御ふみ前後さんやつうさ御文のやうん

あふみのくにおふりめし、さかもとかくら大将軍へまいらせられて
つきの日てたいめんありて御かはらけまいりいつものまいりもちらくまいる
まいりてのこと共御文のせんしてまいらせさ候ふと御かはらけまいる
まいりせんしつきてみな上下大かたおのおの御ほしよし女御の方へ　さけらる

十四日　なし
大将軍より御しくひらる女院の御方よりさけらる女院の御かたへまいりん
御心よりのまいりのまけさらいのそのしくいまいらる

十五日　なし
御物のせんしあそし　おひへのてあんおもての御かたくまいらし
へんしりしての御経せらし女院の御かたのれうの御となりの廷
生日れいの心経女中のまいらせしん女院の御く経ら大かたおの人

よりあそんのちそうまいる

十六日 はる

関白殿より内々ちうもんいらるるのたくさんはえかへる

ていうんなむの院より女中へ一こんとふかへしやのおとこは

ちんのさうより大すけ殿へ御局中のみをたまはり大中弁殿

もんしちんのさいれいいそひのそろへかた一しやのおとこ殿

つしいちんきくらんとて御たとなりれんといりていまそのところ

なをまよりさ吉田殿 ねことなりをめて一つのよし将軍よりてんそう

中はめてさうちち吉田よりて ねことなりとさいし四いせいまゐる

らしいし御あんないあり

十七日 はる

江戸の将軍よりしよしよより大樹よりの御馬とまいる

十八日 はる

せいくわん院殿 松木 あすかゐ 法院殿 まいらるる

十九日

大覚寺殿 御事なし

廿日 はる

まつもとより うりかうしやとていろいろまいらるる

廿一日 はる

きんちう関白の大典侍まいりてんきよくてめてたし

ところ御かうの御植木とんいろいろしまいらるる

廿二日 はる

ゑんなう御車よし

廿三日

たいさうこんゐん一おこなはるゝ

廿四日 はれ

よるの御所の御ひやうきんのやうなる御こと御ふく

ゐんの御ゑ女院の御かたへまいらせらるゝ

廿五日

かるたる御こと三の御ふくの御ことおもとたちかなとてはせんいろく

まいらする女中のなかのめてたし

廿六日

あさての女院の御かたへ女院の御かたのいちのひとつねのいろく

山科のとて御はけまいらせらるゝ

廿七日 はれ

けふ女院の御かへせんとて小天ゆまいりてめてたし 女院

の御かたへまいらせらるゝ 御めてたさの御いはひの御事よりて新大すけ殿

こさうしへの御礼の揺柚まいらせらるゝ 御はつゐなかもての七日まいる比

り揺柚まいらるゝ

廿八日

女院の御かたへいろくまいらせらるゝ人々のおほくおほく一こゑ

廿九日 はれ

きうくの御出の吉田の御かたのいろくいろ

十月

一日 あさ夕かたなし
朔日の御祝ひいつも人なくてまいる 夕かたの御さかついつものことく
三こんまいる 二こんとむこんさいのしろさき女中院のまいる 御所御字かいさまいる
まつけいんとのゝまいる けふはれく まいらるゝ
二日 はれ 風ふく
あんせとまいらし 北はうりんのことゝ中将の廿日ゟ
まつ上に入江殿かたへ御成あり
三日 はれ
さてふかいのことえたゝく分いきんてまいらるゝ 北せのいとまいる
いつものことく三こんまいる つくいきんてまいる あとへまいらるゝ
あさまいり女御たちより六宮の御もとひのゝ
つてまいらしまいらせらる
四日 はれ
あさ御所より一かうさいしのいせのせんさまいらるゝとのめとて
御とひのしつね まいる
五日 はれ
御たちの事なし
六日 はれ
女院殿はう揚一ゆうらる中弁ふくこ新北まいりあけらる
七日 はれ
女院の御ふの御むまいらせいらつくらそてのうしくるいありもなる
まいる

女中府へまいりてめてたし

八日　はれ

うかゝいに光毅まいる

九日　はれ

正大納言事仰し

十日

女院の御方よりけふまんさいあそはさるゝ

十一日

ないとんの事仰し

十二日

う川まいりつきまいる　御所へ一献御上ゆへまいるしいまいる　女中へ

一献にて物いらぬかいりまいる

十三日　はれ

女院の御方より御搗ともの御かはりまいる　御上ゆ

十四日　はれ

主上より御方の御所よりまいりてこのちや御上ゆへまいりかつく

いつもの御祝まいりし

十五日　はれ

御精進の御心経いつものことく女中へもまいる　ちんそう女院よりも

光毅まいる　いつもの御かたへ　女院の御方よりも御精進ささなのまいる

御上ゆへ仰し　けふのいのこのいはいあちやさんへまいる　御上ゆ

方々よりまいりて　ゆへ仰し　夕方の御盃いつものことくまいる

はくしハきんてうへいとへさぬえらる、ふいの方女御方まいる
まてらるの世ち将軍こしてまいらるの御くおとこたちへまいる大
りち北人なつき御わたる

十六日はれ
あしたの御所へ女中へ入御なる

十七日あめ
長なる事なし

十八日
院の御所のはうしき北よろこひの御礼とて此御所へまいらしまいらるいとう
あきまかせとてたち御申さる

十九日はれ

女院御所よりまいる

廿日はれ
はつ王子の称号侍従らにくく千種よ中廣橋勧修寺
ろくる長橋あん人を文いる

廿一日はれ
らくくう宮の方女院御所御わたり方へまいる

廿二日
御こなたけ殿まいりてまいらる九の宮の方へかへる

廿三日
女三の宮の方へ誕生日のいはひにちんにてまいりしさけまいる
一こんまいる大すけ殿御わたりに御植とてちんにてしまいりけまいる

廿四日 てんきよし
廿五日 さむし
ことなる事なし
廿六日
御せちしらしらせらる
廿七日
いぬのこくよりしゆんかいきんてうゐんよりおほせいらせまいらする
こくこんにてきんてうへまゐらるゝ 宮の御かた女御ゝゝ
いかゞ御しゆまいる
廿八日 ちらちらふる
朝かれゐにて 女院の御かたさけまいる

廿九日 てんきよし
大乗院よりさけ一か御たる白鳥上る
卅日 風ふく
まくらの御数ある

十一月

一日 雪
朝かれゐにて御いはい御さか月三こん 宮の御かたより御まいる
ゝ御さかつき三こんにて 小御所にて 女御の御かたよりさかなまいる
久しき人ゝの御まいりにて御いはひあり

二日　さし
女御方より柿のまいる
三日　さし
はいしやうれし一折まいる
四日　さし
女院御なりしまいりの梅のうつくしいはまいりてはひしく
五日
六日
七日
是ゟ御事なし
八日　さし

しら川まちより光義出
九日　さし
御修法のはしまりとてかたをまいる
十日　はれ
是ゟ御事なし
十一日　より
関白より参りのはしめあんないありて十八日とさたある
十二日　さし
十三日の方より仏しまいりて女御方の梅の御花ふく一えだ
のまいりのはしめなりしは御二こんまいりて二はんあそばさるゝ
十三日の方へいりて二はんあそばさるゝ御修法けふちやく
のん

一　いあんないにてしやう軍よりおとゝの御ゆへにておまとまいる大たち
此人々ゑりやうの御はいとてまいらせてしよさけかる
十二日　はれ
たいとうの事あれし
十四日　はれ
れいのまいりことにかしこの事いはるゝ御所へ御もとよりまいりて見えさせ給
十五日
いつもの御心経いつものことし女中のまいりてんしの御所より参らる
十六日　はれ
女御の方より御はいとてまいりてしよさけかるに又あり
一こんにて女院の御かたよりまいらせられて御はいとていらるゝ

十七日　はれ
春日祭にての御車そへてとし聞ゆるにてまいる
かいは勧修寺中納言なり左中弁に十五日なりことなり
いつものことし
十八日
まつりの御せちうかいもしくとてんきよくてめてたし
大たちの人々御まいりあり
十九日　はれ
うちの御まいりの御せちはいかにもてなしふくきのまいる
廿日　はれ
てん長老いなりのまいりのしとてまいる御礼申さるゝ

廿一日　はれ
女院の御所へ御なりなる
廿二日
いせの上人こんとせんくうの事申さるゝとあれともなかなかちかひ十てう御[illegible]
北しら川まいる
廿三日　はれ
鍋嶋るすゐ御ことにてあかけしさるゝ
廿四日　ふる
こゝのへより女院の御所へ御まいりなる
廿五日　はれ
日のおはしこ小事なし

廿六日　はれ
しら川殿の方よりいろ/\まいらせらるゝ　女御の御かたへ三色三かの御かさねの
いつくしき御事にてまいらせらるゝ　女御の御かたへ[illegible]
御てうし　御太刀このよし申さるゝ
廿七日　はれ
大すけ殿女御の御所より御すゝもし[illegible]御たいの御所よりまいる
御あつかる
廿八日
いつもさま/\の御事にて御まいりにてあるの御事
ふつかんの御ゆけにて[illegible]いつも御ゆへ御たいの御まいりなる
廿九日
はれ　御せいし御おせん[illegible]

十二月

一日 はれ
朔ゝ覚て殿へは御前へ御供申とて御目見にて[illegible]
史二人へ御料理多分ゝ遣し[illegible]

二日 はれ
[illegible]備後守分参りて御相伴いたし[illegible]

三日 はれ
平田備後守分参りて御相伴いたし[illegible]

四日
菅田備後守分参りて御相伴いたし[illegible]

五日 はれ
[illegible]院分[illegible]参る

六日 雨
吉井[illegible]事なし

七日
平田備後守分[illegible]

八日 雨

九日

十一日 向[illegible]の[illegible]勤仕[illegible]

[illegible]

十 一条殿へ申し[illegible]勤仕し

十日　はれ
諸大夫衆人より大いちおん人ハよもしれハ宮のとまこひしてまいらせらるゝ
てほりひしくちのまへてわうけ大いちおん人ハいつも御まいる

十一日　はれ
ことなる事なし

十二日　はれ
御修法のけちくわんとて御まいりまいらする

十三日　はれ
くわんさう宮の御方へ女中へ御まいらるゝ

十四日　はれ
入江殿よりさんしまいる

十五日　はれ
御誕生日とて御所中へハ代殿よりの御いはゐの宮にて御まちかちんまいる
一こんにて宮の御方大すけ殿女中の御ゆくにて近衛殿親町
三条宰相黒木清弁御会とて北白川とふかまいる
女院の御方へおちんさうれのうへハ御いりしハ御ひろいにていつものとをりの心経
女中皆々いよくもちんしの院の御方殿ゟちんらるゝ大すけ殿御まいる
さひろいに

十六日　あかうふる
女院の御方ハふくにて半内侍殿七献まいりハ代殿の御ちんふくにて

十七日　はれ
院の御所のつくしつの花おうけらるゝてくやうしまいる一条殿御元
ふくみてハまちおくにらるゝ御修法のけちくわんとてつゝくくハ御いり

女中へ御たる女三宮ニ方よりとゝきのいはい樽三色三かまいる

一条殿こんしきしやうそんゐより勅作く

十八日 はれ

一条殿おほせ事にて勅作まいる

十九日

正親町院殿よりとてまいるまいる 御所へ 勅作もとして白銀五枚まいる

御修ちやうもんはいの御いはい樽まいる

廿日 はれ

一条殿にはこの御けふは条月まての樽五色五かのまいる

こんこん女御方との御祝まいる 庭田いなかへの代執にて樽まいる

卩いさらし正親院にて 御所へまいるの事とて御修ちやうもんまいる

勅作く 板倉ゑいん御けと二つたいのまいる

廿一日 はれ

御恩院よりとの御ゆるしのまへよりまいるまいる

廿二日 はれ

御恩院まつしよりの志やうくのんてし 御所 勅作まいる

卩十て白かね五枚まいる

廿三日 はれ

ちおん院まつしよりの御しし広橋宰相おさんきの御樽まいる

五色五荷まいる

廿四日 はれ

大すけ殿よりとて三色三かまいる 一こんちおん院より 卩院

廿五日はれ
ちおん院よりまいる 女院御所よりまいる 中納
言入道より歳暮とて白銀十枚長橋より文出さるゝ
わさと道三にせいたんのたきものまいらする 申

廿六日はれ
般舟院よりまいる 女御の御方よりこころもちあんりん院より
大すけ殿御方の御けん大すけより十てうまいる二尺卅四本
白かね三枚まいる

廿七日はれ
さいしやう殿より御ちやまいる れんちやうの御れい
つれてまいる月二こん夕方いつものことく二こんにて御さかつき

さほとのれとゝちまへ上あつまりの湯殿のうへへ長橋
殿の男にちへのとおりとてちんそんより五条のひたん内侍に
いらるゝたいそん御まてうみかけの御きぬまて内侍にまいる
まいる御まへにて御みき一こんにての御さかつき三こん
ちおん院よりまいる 諸大夫二人いつもこれにて御所御上

廿八日
朝の御まへ中の院のかた御めしあり御みき御いた一こんにて
いまゝいらせられてうみあけわたし猪熊殿ちおん院より
まいる 御あつかりよりしきたいまいる

廿九日はれ
御ふしの御まへよりちおん院よりまいる 前相国かたにて

まへ戸 佐ち夫つ紀ア 大く たる梅のいろくろ行けり

卅日 晴れる

町屋けし此晝唐しくのきんまでてんらまの方女御前の在所

武ア世しいふち示とてつ楊三色三らつ布へふくいろ老とりし

吉田なりしいら方く台堂殺らちれん院分くる方清し支誠

此つ晝つこ始あとき一こんきんもら内しのれとさちつさいまつる佃ら

とれちとつんさくてつ料かんハ好し

日本政府圖書
圖書局文庫
内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan